

SHOW HEY シネマルーム

★★★★★

A SNAKE OF JUNE 六月の蛇

配給/ゼアリズエンタープライズ

2003 (平成15) 年5月21日鑑賞

<東映試写室>

Data

製作・監督・脚本・撮影監督・美術
監督・編集：塚本晋也

出演：黒沢あすか／神足裕司／塚本
晋也

👁️👁️ みどころ

『六月の蛇』とは何とも思わせぶりなタイトル。テーマはエロス。そして第59回ベネチア国際映画祭で審査員特別大賞を受賞した作品だ。塚本晋也監督が脚本、撮影監督、美術監督、編集を兼ねた上、スターカー男として出演までしている。素晴らしいのは主演の黒沢あすか。一気に人気沸騰か……。モノトーン、スタンダードサイズのスクリーンが美しい。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<ベネチア国際映画祭受賞作品>

塚本晋也が製作、監督、脚本、撮影監督、美術監督、編集そして出演までしたこの映画は、2002年の第59回ベネチア国際映画祭で審査員特別大賞を受賞したが、これは、1998年の北野武監督の『HANA-BI』以来だ。

カラーではなく、青いトーンで統一したモノクロの画面と、スタンダードのスクリーンサイズ（つまり横幅が小さい）が特徴で、いかにもマニアックな映画。

ストーリーの展開も解説調ではなく、象徴的な場面をうまくつないでいくことによって観客に理解させていくというやり方だから、刺激的なシーンが多いこともあり、思わず身を乗り出してしまう。

1時間17分という短い時間だが、製作者の主張が凝縮されており、ベネチア国際映画祭受賞もうなずける。

<テーマはエロス！>

この映画は成人映画ではなく一般映画で、6月下旬からロードショーされるが、テーマ

はエロス。それもかなり濃厚なエロス作品だ。

もっともセックスシーンそのものはほとんどなく、言葉や表情、そしてカメラのレンズを通して、心の奥底に潜むさまざまな性的欲望とエロスをめぐる人間関係を印象的に描いている。わざわざ狭いスクリーンを選んだのはそのためだし、モノトーンの映像もそのためだ。

そして、常にバックにあるのが雨。それもかなりの雨が降っているから、その雨音がすごく効果的。そして物語の展開を六月のジメジメした梅雨の季節に設定したことが、「蛇」のイメージと重なり、エロチシズムを高めている。

<個性的な出演陣>

主役の女性、辰巳りん子を演ずるのは黒沢あすかという女優だが、それほど有名ではない。しかし、『六月の蛇』で私の女優生命が始まりました。」と語っているように、複雑で難しい人妻の役を見事に演じている。

りん子は夫との（性）生活に不満をもちながらも、電話カウンセラーとして真面目に働いている人妻。そんなりん子に、りん子の自慰行為を盗み撮りした男鮎口道郎（塚本晋也）からある日写真と携帯電話が届いた。そこから始まる男のストーカー行為。このストーカー一男鮎口道郎を演ずるのは塚本晋也監督自身だ。

下着をつけなくて短いスカートをはくことを命じたり、パイプレータをつけて歩くことを命じたり、ストーカー男が命ずることはまるでスケベオヤジそのものだ。

しかしこの鮎口はりん子に電話相談を聞いてもらったことによって、一度は死ぬことを思いとどまった男。しかし、本当は鮎口はガンに冒されており、余命いくばくもない身だった。そして盗み撮りしたりりん子の写真を見て、鮎口道郎はりん子にも病院に行けと命じたが・・・。

<夫もヘンな奴>

りん子の夫辰巳重彦を演ずる神足裕司は、本業はコラムニストであり、本作は2作目の映画出演とのことだが、これがまた「ヘンな奴」。潔癖症の男で、暇さえあれば、台所や風呂を磨き上げている。デブプリと太ったあの体型では、セックスで妻を満足させられないだろう、と容易に推測できる。

妻のりん子から、ガンに冒されており、胸（おっぱい）を1つ切りとらなければならぬと打ち明けられた時の重彦の反応。そして妻の元へ送りつけられてきた手紙を見て不信感をもった重彦の反応。その他、とにかく変なオヤジ。この変なオヤジをいかにも素人が素人臭く演じており、思わず失笑がもれる。

塚本監督がわざわざ素人役者を配置した狙いも何となく分かる気がするが・・・。

<総評>

個性的で、エッチで、すごく刺激的。少しマニアックだが、何を言いたいのかさっぱり分からないというほど捻っておらず、エロス、ストーカー、梅雨、蛇、ガンなどのイメージや狙いが十分に理解できる。そして画面がキレイ。私はこういう映画が大好きだ。

主役のりん子を演ずる黒沢あすかが特にいい。「美人」で売っているわけではないが、よく見るとかなり美人女優。私としては、かなりのおすすめ作品です。

2003（平成15）年5月22日記